

大阪府内における麻しんに関するリスク評価

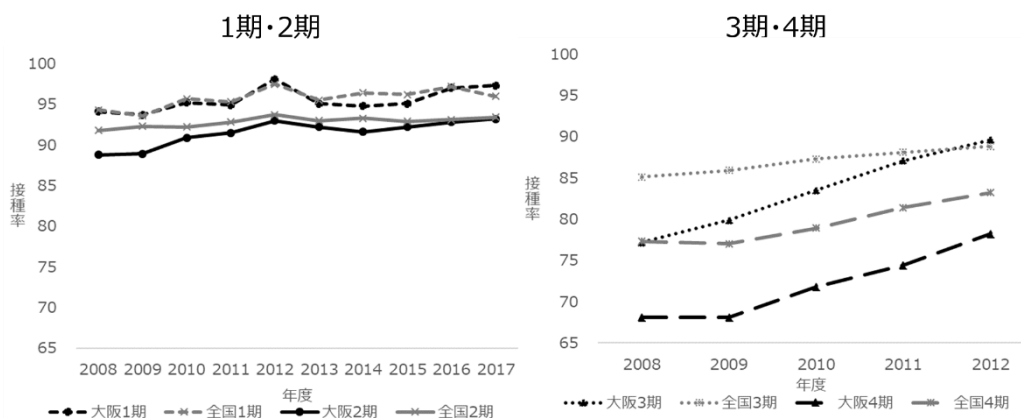
大阪健康安全基盤研究所 公衆衛生部 健康危機管理課
 大阪府感染症情報センター
 国立感染症研究所 感染症疫学センター

2018年10月以降、大阪府内で麻しんの報告が継続し、施設内での集積なども発生している。今後の麻しん対策強化の判断に資するため、①感受性者の状況、②麻しんウイルス流入の機会、③麻しんウイルスに曝露される機会を勘案し、大阪府内における麻しんの発生に関するリスク評価を行った。以下に示すそれぞれの結果から、大阪府内での麻しん発生のリスクは今後も高いと判断した。なお、今後の発生状況や入手可能な情報にもとづきリスク評価は適宜更新する。

①大阪府内の感受性者の状況

厚生労働省「麻しん風しんの予防接種実施状況」(<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/hashika.html>)によれば、大阪府の麻しん含有ワクチンの定期接種率（以下、接種率）は、年々上昇しているものの、2期～4期は集団免疫により感染拡大を防止できるとされる95%に達していない。2017年の2期の接種率について、95%以上の接種率を達成できた市町は11/43市町（26%）であり、8市町については、接種率が90%未満であった。定期接種の機会がない、または1回である29歳以上の年代に加え、3期、4期(※)の対象であった20歳～29歳（2019年時点）の年齢においては接種率が65%～90%と95%を大きく下回っており、感受性者の蓄積が懸念される状況である（図1）。

図1. 麻しん含有ワクチン接種率（大阪府および全国、1期・2期：2008年度～2017年度、3期・4期：2008年度～2012年度）



厚生労働省「麻しん風しんの予防接種実施状況」¹⁾より作図

(※) 2008年から2012年までの5年間、中学1年に相当する年齢の者(3期)、高校3年生に相当する者(4期)に対して補足的接種が行われた。

②大阪府内への麻しんウイルス流入の機会

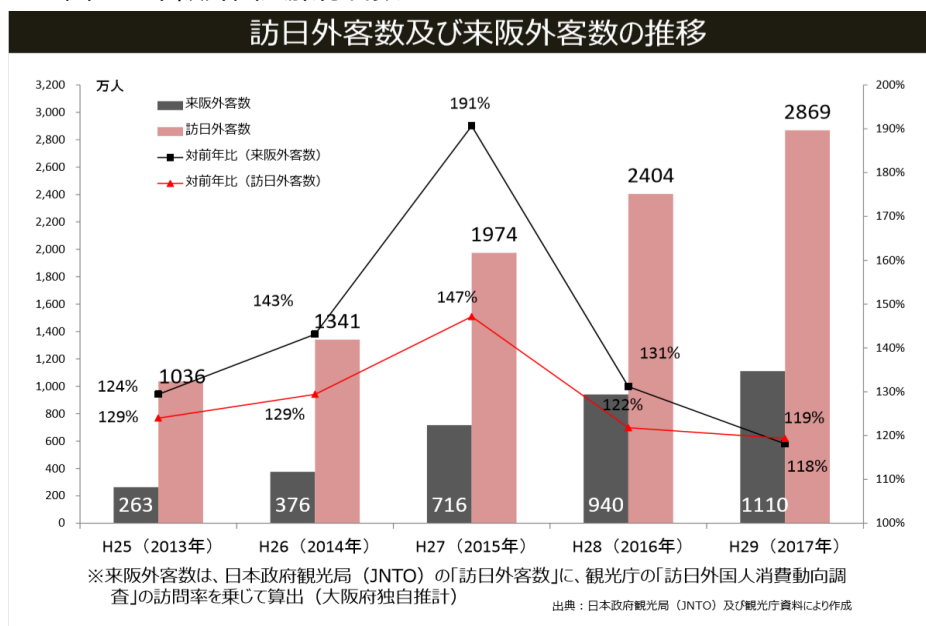
日本人旅行者は、東南アジアの国々が主要な渡航先となっており²⁾、これらを反映して、2013年から2017年の日本の輸入麻しん症例の報告数は、フィリピン、インドネシア、中国、ベトナムの順に多かった³⁾。WHO（世界保健機関）が公表している中国、東南アジア諸国の麻しん患者報告数を表1に示す。これらの国々は南太平洋地域（Western Pacific Region, WPR）及び南東アジア地域（South-East Asia Region, SEAR）に属するが、WPRとSEARの麻しん報告数を合わせると2014年から2018年の全世界の麻しん報告数の半数以上を占めている⁶⁾（表1）。近年、ヒトの交流（図2）、経済活動の活発化に伴い、国内外の旅行者が東南アジアを中心とした麻しん常在国から、国内へ麻しんウイルスを持ち込む可能性は今後も継続するといえる。

表1. 国別麻しん患者報告数

| | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 中国 | 52,536 | 42,892 | 25,593 | 5,999 | 3,861 |
| タイ | 834 | 190 | 1,009 | 2,033 | 4,791 |
| インドネシア | 9,498 | 6,209 | 7,204 | 11,389 | 3,395 |
| マレーシア | 223 | 1,322 | 1,587 | 1,693 | 2,510 |
| フィリピン | 53,906 | 2,021 | 647 | 2,407 | 15,599 |
| ベトナム | 17,793 | 1,730 | 968 | 912 | 1,440 |
| 日本 | 462 | 35 | 165 | 189 | 282 |

WHO「Measles and Rubella Surveillance Data」⁶⁾より算出

図2. 来阪外国人旅行者数⁴⁾



③大阪府内で麻しんウイルスに曝露する機会

日本は2015年3月27日に麻しん排除の認定を受けている。一方、世界的に麻しんの発生は、1月～5月に増

加する傾向がある。日本も 4 月末から始まる大型連休が控えており、春先から初夏にかけての麻疹流行シーズンに国内外の人の往来が活発になることが予想される。これにともない、大阪府内でも、麻疹に対する免疫をもたない者（感受性者）が麻疹ウイルスに曝露される機会が増えると推察される。2019 年の大阪府内における麻疹の報告数はすでに、過去 3 年の同時期の数を上回っているが（表 2）、上記の理由から、さらに報告数が増える可能性は否定できない。

表 2. 全国と大阪府の過去 5 年間の麻疹報告数

| | 2016 年 | 2017 年 | 2018 年 | 2019 年 |
|-----|--------|--------|--------|---------------|
| 日本 | 165 | 189 | 282 | 167 (2/13 現在) |
| 大阪府 | 51 | 10 | 15 | 81 (2/17 現在) |

感染症発生動向調査に基づく

引用・参考文献

1)厚生労働省 麻疹風しんの予防接種実施状況

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/hashika.html>

2) 日本政府観光局 各国・地域別 日本人訪問者数 [日本から各国・地域への到着者数] (2013 年～2017 年) https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/20181026_6.pdf

3) 日本の輸入感染症例の報告について (2019 年 1 月 16 日更新版)

https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/imported/PDF/20190117_Webup%20Imported%20IDs%20revised.pdf

4) 大阪府 訪日外客数及び来阪外客数の推移

<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/3696/00000000/29raihansuii%20.pdf>

5) 日本政府観光局 訪日外客数 (2018 年 12 月および年間推計値)

https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/pdf/190116_monthly.pdf

6) Global Measles and Rubella Monthly Update January.2019

https://www.who.int/immunization/monitoring_surveillance/burden/vpd/surveillance_type/active/measles_monthlydata/en/